

令和2年度

教職2～3年次研修

実施要項

三重県教育委員会
研修推進課

目 次

- 令和2年度教職2～3年次研修実施要項…………… P 1
 - 令和2年度教職2～3年次研修実施要領
 - 第1・2回 【必修】社会体験（社会体験研修）…………… P 3
 - 第3回 【必修】教科指導（授業研究）…………… P 5
 - 第4～6回 【必修】教育課題（教育課題別研修）…………… P 6
 - 第7・8回 【必修】ネットDE研修（ネットDE研修）…………… P 8

- 台風時、南海トラフ地震、弾道ミサイル発射等非常時における研修講座の実施について…………… P 10

- 令和2年度教職2～3年次研修 提出書類様式
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講計画書（様式1）…………… P 11
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講報告書（様式2）…………… P 12
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講計画書（様式1）記入例2年次…………… P 13
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講報告書（様式2）記入例2年次…………… P 14
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講計画書（様式1）記入例3年次…………… P 15
 - 令和2年度教職2～3年次研修 研修受講報告書（様式2）記入例3年次…………… P 16

- 【資料1】校長及び教員としての資質の向上に関する指標…………… P 17
- 【資料2】令和2年度 ネットDE研修公開講座一覧…………… P 18

令和2年度教職2～3年次研修実施要項

1 目的

本研修は、教職経験1年を経過した教諭等が、今日的教育課題や自己の教育課題について最新の知見や対応方策に関する知識を身に付け、実践力を磨き、教職としての基礎・基盤を固めることを目的とする。

2 実施主体

三重県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）は、県教育委員会が実施する初任者研修を受講した2年目及び3年目の教諭等を対象に、教職2～3年次研修を行うものとする。

3 対象者

令和2年度教職2～3年次研修の対象者は、平成30年度及び2019（平成31）年度初任者研修対象の教諭等とする（養護教諭、栄養教諭は含まない。）。

4 研修概要

- (1) 各回の研修は「令和2年度教職2～3年次研修実施要領」に従い実施する。
- (2) 研修の実施にあたり、対象者は、「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に基づき、自己の教育課題等に応じて「研修受講計画書」（様式1）を作成する。
- (3) 県教育委員会が定める研修（社会体験研修2回、授業研究1回、教育課題別研修3回、ネットDE研修2回）を受講する。

第1・2回	社会体験研修	2回（1日は5時間以上）
第3回	授業研究	1回（原則1限分の提案授業と事後協議）
第4～6回	教育課題別研修	3回（1回は2時間以上の研修講座）
第7・8回	ネットDE研修	2回（ネットDE研修2講座受講で1回）

- (4) 平成30年度初任者研修対象者は2019（平成31）年度・令和2年度の2年間に、2019（平成31）年度初任者研修対象者は令和2年度・令和3年度の2年間に、原則として受講する。単年度で全ての研修を受講することも可とする。
- (5) 年度末に研修の成果を振り返り、対象者は「研修受講報告書」（様式2）を作成する。

5 研修計画

- (1) 教職2～3年次研修が、「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」（指標）に基づく実践的指導力の向上に質するものとなるよう、対象者は研修の実施にあたり校長の指導、助言を得て「研修受講計画書」を作成する。
- (2) 校長は、対象者が作成した「研修受講計画書」を確認のうえ、当該教育委員会事務局へ提出する。
- (3) 「研修受講計画書」は、令和2年度に受講する研修についてのみ作成する。作成の際は、「実施要領」「記入例」「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」等を参照する。
- (4) 「研修受講計画書」の提出後に研修内容等を変更する場合は、対象者は校長と相談のうえ決定する。「研修受講計画書」を再度提出する必要はない。
- (5) 平成30年度初任者研修対象者は、令和2年度に受講する研修についてのみ作成する。

6 研修報告

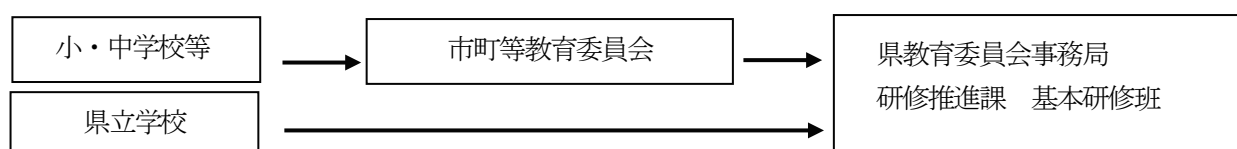
- (1) 対象者は、研修の成果を振り返り、まとめとして「研修受講報告書」を作成する。
- (2) 校長は、対象者が作成した「研修受講報告書」を確認のうえ、当該教育委員会事務局へ提出する。
- (3) 「研修受講報告書」は、令和2年度に受講した研修についてのみ作成する。作成の際は、「実施要領」「記入例」等を参照する。

7 教職2～3年次研修に関わる提出文書

提出物	県教育委員会への提出締切	備考
研修受講計画書 (様式1)	令和2年 6月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に受講する予定の研修についてのみ記入する。 ・対象者が病休・育休等の場合で、1年間研修の受講が見込まれない場合は、計画書上部の6項目(所属コード、提出日、学校名、職員番号、校長名、対象者名)のみ記入し、提出する。 (平成30年度初任者研修対象者で、2019年度に第1～8回すべて受講終了している場合は、計画書の提出は必要ありません。)
研修受講報告書 (様式2)	令和3年 2月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に受講完了した研修についてのみ記入する。 (令和2年度受講した研修が全くなかった場合は、報告書上部の6項目のみ記入し、空欄で提出する。) ・対象者が病休・育休等の場合で、受講した研修が全くなかった場合は、報告書上部の6項目(所属コード、提出日、学校名、職員番号、校長名、対象者名)の欄のみ記入し、提出する。 (平成30年度初任者研修対象者で、2019年度に第1～8回すべて受講終了している場合は、報告書の提出は必要ありません。)

- (1) 市町等教育委員会事務局への提出締切は、これより早い日程を、各市町等教育委員会が設定する。
- (2) いずれの提出文書も電子媒体にて提出する。(公印不要)
- (3) 様式は県教育委員会事務局研修担当(三重県総合教育センター) Webページ(トップページの「1 研修講座 1.5 提出書類様式 3 教職2～3年次研修」)からダウンロードできる。(http://www.mpec.jp/)

8 提出物の流れ



9 その他

この要項に定めるもののほか、教職2～3年次研修に関する事項は県教育委員会が別に定める。

令和2年度教職2～3年次研修実施要領

第1・2回	区 分	【必修】社会体験
	研修講座名	社会体験研修

1 ねらい

民間企業や福祉施設等で社会体験をすることにより、視野の拡大や発想の転換、地域とのネットワークづくり等を促進し、教諭等としての資質向上を図るとともに心豊かで創意あふれる学校教育の実現をめざす。

2 主 催

三重県教育委員会

3 日 数

- (1) 2年間で2回受講する。ただし2日間連続とする必要はない。
- (2) 1回の研修時間は5時間以上とする。

4 対象者

令和2年度教職2～3年次研修対象者

5 研修先

対象者は研修のねらいを踏まえながら、本研修をとおして何を学び、どのように教育活動に活かすかを考え、研修先を選定する。

- (1) 対象者は、校長と相談のうえ研修先を選定する。
- (2) 対象者は、研修先と相談し計画を立て、校長の承認を得て決定する。
- (3) 2回とも同一の施設等で実施することが望ましい。
- (4) 研修先として想定されるものは、次のとおりである。
 - ア 企業等（農林水産業、建築・土木、製造業、電気・ガス、不動産関係、金融・保険、情報・通信、サービス・流通、運輸業等）
 - イ 社会教育施設等（公民館、図書館、博物館、美術館、青少年自然の家、体育施設等）
 - ウ 社会福祉施設等（老人福祉施設、児童福祉施設、身体障害者福祉施設、知的障害者福祉施設、生活保護施設、老人保健施設等、在宅看護・派遣、医療、保育等）
 - エ その他の社会体験（NPO法人、社会福祉協議会、行政部局等）

6 費 用

- (1) 旅費は、次の予算コードにて処理を行うこととする。

小学校・義務教育学校（前期課程）：1181-22、中学校・義務教育学校（後期課程）：1183-22、 高等学校：1186-07、特別支援学校：0553-07

- (2) 旅費の処理を行う際、必ず用務名の先頭に「**（2～3年研）**」と入力する。
- (3) 研修に必要な作業着、消耗品等に要する経費は、対象者又は所属校が負担する。

7 災害補償

対象者に研修業務上の災害又は通勤による災害が発生した場合には、地方公務員災害補償法（昭和42年法律第121号）に基づき補償を行う。

8 損害賠償

対象者が研修受講中に第三者に身体や財物に損害を与えた場合（三重県教育委員会事務局が法律上の損害賠償責任を負った際）、県が加入する賠償責任保険により対応する。

ただし、対象者の故意や過失による場合はこの限りでない。

9 その他

- (1) 対象者は、教育公務員としての立場を自覚し、相応しい言動に留意し、服務規律を厳正に保持する。
- (2) この要領に定めるもののほか、研修実施に必要な事項は関係者の協議によって定める。
- (3) 研修先は所属校と同一市町内の施設等とする。ただし、研修の趣旨に沿った該当の施設がなく、かつ合理的であると判断されるときは、県内の隣接する市町での研修を認める場合もある。その場合は県教育委員会事務局 研修推進課 基本研修班（059-226-3571）に確認をする。
- (4) 勤務日、勤務時間内に研修を行うことを原則とする。研修先の勤務条件に合わせなければならない場合は、校長の認める範囲において行うことができるものとする。
- (5) 緊急にやむを得ず欠席等しなければならない場合、対象者は校長の承認を得たうえで、研修先に連絡をする。
- (6) 研修先において知り得た情報は、これを漏らしてはならない。また、研修終了後も同様とする。
- (7) 以下の研修は認められない。
 - ア 親族が経営する会社や親族が所有する田畑の収穫等の手伝い、異校種の学校での研修
 - イ 宿泊を伴う研修
 - ウ 他の通常業務と兼ねて行うこと

第3回	区 分	【必修】教科指導
	研修講座名	授業研究

1 ねらい

授業力の向上を図るため、校内で提案授業を行い、管理職や先輩教員等から指導・助言を受けるなど協議を行うことで、それぞれの強みの強化や弱みの克服をめざす。

2 対象者

令和2年度教職2～3年次研修対象者

3 研修内容

校内において、提案授業を1回行う。

授業後は参観した管理職や先輩教員等から指導・助言を受ける等、授業について協議、意見交換を行う。

授業・協議後は、授業力における自らの課題を明らかにし、報告書に今後の改善点等を記載する。

4 その他

(1) 学校内において行うことを原則とする。

(2) 提案授業は、いわゆる“授業”とする。

【例】提案授業にできる……各教科の授業、特別の教科 道徳、
総合的な学習の時間、学活・LHR、
小学校の外国語活動

提案授業にできない…学校行事、全校集会・学年集会、給食指導、清掃指導、
課外活動

(3) 授業後は、参観者と協議、意見交換を行い、授業力における自らの課題を明らかにする。

(4) 報告書に「参観者名（代表者でよい）、参観者数」、「今後の授業に活かしたいこと」等を記載する。

第4～6回	区 分	【必修】教育課題
	研修講座名	教育課題別研修

1 ねらい

対象者個々の教育課題、ニーズに合わせた研修講座を受講することにより、それぞれの強みの強化や弱みの克服をめざす。

2 対象者

令和2年度教職2～3年次研修対象者

3 研修内容

次の中から、対象者個々の教育課題、ニーズに合ったものを計3回（1回は2時間以上の講座）受講する。

- (1) 県教育委員会が行う諸研修（県教育委員会事務局研修担当(三重県総合教育センター)の研修講座を含む。）
- (2) 市町等教育委員会が行う諸研修（市町等教育委員会主催研修）（教育研究所等の研修講座を含む。）
- (3) 研究指定校等の研究発表会・授業研究会等
- (4) 上記(1)～(3)以外で、当該教育委員会が適切と認めたもの

4 県教育委員会事務局研修担当が実施する研修講座の受講に際しての留意事項

- (1) 各研修講座の詳細については、県教育委員会事務局研修担当(三重県総合教育センター)のWebページを参照する。
- (2) 受講可否通知（受講承諾メール）にて受講可否を確認した後に、受講する。
- (3) 申し込みの際、登録画面の備考欄に「**(2～3年研)**」と入力する。
- (4) 受講に係る連絡事項（持参するもの、提出物など）がある場合は、受講可否通知（受講承諾メール）またはWebページに記載するので確認する。
- (5) ブロック別研修（講座番号が「L」で始まる講座）を受講する場合は、次の点に留意する。
 - ア 研修講座に関する問い合わせや受講の申し込みは、対象者が直接各市町等教育研究所等に行う。
 - イ 受講の可否は、対象者が直接各市町等教育研究所等に確認する。

5 市町等教育委員会又は市町等教育研究所が実施する研修講座の受講に際しての留意事項

上記研修講座を受講する場合は、各市町等教育研究所等から出される実施要領・申込要領等に従い受講すること。

6 費用

- (1) 旅費は、次の予算コードにて処理を行うこととする。

小学校・義務教育学校（前期課程）：1181-22、中学校・義務教育学校（後期課程）：1183-22、高等学校：1186-07、特別支援学校：0553-07

- (2) 旅費の処理を行う際、必ず用務名の先頭に「**(2～3年研)**」と入力する。

- (3) 研修に必要な作業着、消耗品等に要する経費は、対象者又は所属校が負担する。

7 その他

- (1) 1回の研修は2時間以上とする。
- (2) 次のものは教育課題別研修にはできない。
- ・ 学校業務（学校で割り当てられる研修等を含む）としての受講や受講を義務づけられた研修
 - ・ 資格試験等
 - ・ 勤務校が実施する研究発表会、授業研究会、公開研究会等
 - ・ 県外で行われる研修
 - ・ 宿泊を伴う研修

ただし、以下の研修は令和2年度教職2～3年次研修として認める。

ア 市町等教育委員会が実施する2～3年目の教員を対象とした研修

イ 県教育委員会事務局 研修担当が実施する「特別支援学級等新担当教員研修」の第1回及び第3回

- (3) 複数日にわたる研修は、1日ずつ1回とすることができる。
- (4) 同一日に複数の研修（ともに2時間以上の研修講座であること）を受講した場合、それぞれの研修を1回とすることができる。（合計2回受講できる。）
- (5) 1つの研修が4時間以上あっても、2回とすることはできない。
- (6) 受講予定の研修講座が中止になった場合は、別の研修講座の受講を計画し受講する。

第7・8回	区分	【必修】ネットDE研修
	研修講座名	ネットDE研修

1 ねらい

最新の教育内容や、対象者個々の教育課題、ニーズに合わせた番組を受講することにより、それぞれの強みの強化や弱みの克服をめざす。

2 対象者

令和2年度教職2～3年次研修対象者

3 受講する講座

県教育委員会事務局研修担当(三重県総合教育センター)が実施している「ネットDE研修」より、次の【A】から2講座及び【B】から2講座を合わせて4講座を受講する。

(1) 第7回研修（2講座で1回）

【A】研修一覧「0100 学校安全・危機管理」「0200 学校経営」「0300 コンプライアンス」「0400 男女共同参画・次世代育成支援」「0600 特別支援教育」「0800 人権教育」「0900 健康・メンタルヘルス」「1000 コーチング」「1100 学級経営」「1300 ICT活用・情報教育」「1500 教育一般」の 카테고리の中から2講座選択し受講する。

[推奨講座]

- 「三重県の特別支援教育について」
- 「よりよい生活の実現に向けた消費者教育」
- 「ICTを活用した支援」
- 「DLAからはじめる外国人児童生徒教育と社会適応」
- 「通常学級で無理なくできるユニバーサルデザイン～あったかクラスづくり」
- 「医療的ケアを必要とする子どもと家族が地域で暮らすこと」
- 「学校の働き方改革（教職員向け）」

(2) 第8回研修（2講座で1回）

【B】研修一覧「0500 授業方法」「1602～1610 教科指導等」「0700 生徒指導・教育相談」の 카테고리の中の講座、及び「0002 NITS【小学校】新学習指導要領編」「0003 NITS【中学校】新学習指導要領」「0004 NITS【高等学校】新学習指導要領編」「0005 NITS【特別支援学校】新学習指導要領編」の中から、2講座選択し受講する。

[推奨講座]

- 「子どもの発達と心の理解」
- 「すぐに使える小学校理科基礎実験」
- 「『特別の教科 道徳』の授業づくり」
- 「プログラミング教育―入門編―」
- 「組体操・組立体操の安全な指導について」
- 「児童生徒の心に残る食の授業の作り方（消費者教育の視点から）」

○「君たちは狙われている！～高校生諸君に送る弁護士菊池幸夫の消費者講座」

※「授業の達人、7つの原則！～子どもが生き生きする「授業」づくり～」
「これで安心！新任先生のための8つの心構え」を再度視聴してもよい。

4 受講に際しての留意事項

ネットDE研修の受講に際しては、次のことに留意する。

- (1) 2講座の受講で1回とする。1回の受講を複数日に分散させることができる。
- (2) 1回（2講座）の受講は、同一年度に完了する。（複数年度にまたがらない。）
- (3) 勤務日に勤務校で受講する。
- (4) 平成30年度初任者研修対象者で、2019（平成31）年度に第7回「ネット DE 研修」を受講完了していない者は、令和2年度の本要項で指定した番組で受講する。第8回「ネット DE 研修」についても同様である。
- (5) カテゴリー「1601 教科指導等-新学習指導要領実施に向けて」の「小学校新学習指導要領実施に向けて（平成29年告示）」「中学校新学習指導要領実施に向けて（平成29年告示）」「高等学校新学習指導要領実施に向けて（平成30年告示）」は、教職2～3年次研修の第7回、第8回としては選択できない。

《台風時、南海トラフ地震、弾道ミサイル発射等 非常時における研修講座の実施について》

1. 「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」発表や解除の状況による研修講座の実施の有無について

- 「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」の発表や解除の状況によって、次のように対応します。

	「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」の発表と解除の状況	講座実施の有無
①	午前7時までに県内の <u>全ての地域</u> において、「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」が解除された場合	実施
②	午前7時を過ぎても県内の <u>いずれかの地域</u> に「特別警報」「暴風警報」又は「暴風雪警報」が継続して発表されている場合	中止
③	午前7時から午前10時までの間に県内の <u>いずれかの地域</u> に「特別警報」「暴風警報」又は「暴風雪警報」が発表された場合	中止
④	午前10時以降に県内の <u>いずれかの地域</u> に「特別警報」「暴風警報」又は「暴風雪警報」が発表された場合	直ちに中止

※午後からの半日講座については、午前7時→午前9時、午前10時→午後1時と読み替えます。

※ブロック別研修の実施の有無については、研修講座を開催する各教育研究所等の規定または判断によるものとします。

2. 「南海トラフ地震に関連する情報（臨時）」の発表による研修講座の実施の有無について

- ・研修等は原則予定通り実施します。ただし、各学校において情報収集に努める必要があることから、各学校の対応状況を確認のうえ、校長、園長等の指示に従い、可能であれば来所してください。
- なお、研修等を欠席する場合には、担当する班に連絡してください。

3. 「弾道ミサイル発射にかかる全国瞬時警報システム（Jアラート）」による情報伝達の状況による研修講座の実施の有無について

- 「弾道ミサイル発射にかかる全国瞬時警報システム（Jアラート）」による情報伝達の状況によって、以下の（1）～（3）のように対応します。また、研修等の実施中にJアラートが作動した場合は、センター職員の指示に従ってください。

（1）「日本（三重県以外）の上空を通過した場合」及び「日本の領海外の海域に落下した場合」

- ・研修等は予定通り実施します。Jアラートによる情報を確認した上で、交通状況等の情報を収集し、安全を確認し来所してください。

（2）「三重県の上空を通過した場合」

- ・研修等は原則予定通り実施します。児童生徒等の不安への対応等、各学校、園等で何らかの対応が必要になることも想定されることから、研修等を受講するか否かについては、校長、園長等の指示に従ってください。
- なお、研修等を欠席する場合には、担当する班に連絡してください。

（3）「日本の領土に落下した場合」

- ・研修等は中止します。

4. 代替講座について

- ・基本研修については、後日に代替講座を実施します。
- ・基本研修以外については、原則中止とします。ただし、必要があれば代替講座を実施します。
- ・代替講座を実施する場合は、後日に連絡します。

【問い合わせ先】 研修推進課 基本研修班 059-226-3571・3695

令和2年度

教職2～3年次研修

提出書類様式

※この様式は、県総合教育センターWeb ページよりダウンロードすることができます。

1 研修講座 → 15 提出書類様式 → 3 教職2～3年次研修

(様式1)

	2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)
	平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講計画書

所属コード		提出日	令和2年 月 日
学校名		対象者職員番号	
校長名		対象者名	

○社会体験(2回) ※1回は5時間以上の研修

研修先選定理由			
回	研修講座名	指標 項目番号	研 修 の 概 要
1	社会体験研修	(③) (⑬)	研修先 (住所) 三重県
			実施日時 月 日
			内 容
2	社会体験研修	(③) (⑬)	研修先 (住所) 三重県
			実施日時 月 日
			内 容

○授業研究(1回) ※原則1限分の提案授業と事後協議

回	研修講座名	指標 項目番号	研 修 の 概 要			
3	授業研究	(⑥) (⑦) (⑧)	提案授業予定日限 月 日 限目	教科名	授業参観者名 (予定)	
			授業改善に向けて、取り組みたいこと			

○教育課題(3回) ※1回分は2時間以上の研修講座 (2時間以上の講座であるか計画時に必ず確認をする)

回	研修講座名	指標 項目番号	研 修 の 概 要				
4	教育課題別研修	() ()	講座番号	実施日時	月 日		
			研修講座名				
			会 場	主催者			
5	教育課題別研修	() ()	講座番号	実施日時	月 日		
			研修講座名				
			会 場	主催者			
6	教育課題別研修	() ()	講座番号	実施日時	月 日		
			研修講座名				
			会 場	主催者			

○ネットDE研修(2回) ※2講座受講で1回分

回	研修講座名	指標 項目番号	研 修 の 概 要			
7	ネットDE 研修	・学校組織 運営力 (⑩～⑭) ・教育課題 への対応力 (⑮～⑳)	講座名	実施日		
				主催者	三重県教育委員会	
			講座名	実施日		
				主催者	三重県教育委員会	
8	ネットDE 研修	・児童生徒 理解(⑤) ・授業力 (⑥⑦⑧) ・生徒指導 (⑨)	講座名	実施日		
				主催者	三重県教育委員会	
			講座名	実施日		
				主催者	三重県教育委員会	

2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)
平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講報告書

所属コード		提出日	年 月 日
学校名		対象者職員番号	
校長名		対象者名	

回	研修講座名	研修の概要		研修をとおして学んだことや今後の教育活動で活かしたいこと
1	社会体験研修	研修先		
		住所		
		実施日	月 日	
		実施時間	～	
2	社会体験研修	研修先		
		住所		
		実施日	月 日	
		実施時間	～	
3	授業研究	提案授業 実施日限	月 日 限目	(提案授業や事後協議をとおして学んだことや今後の授業に活かしたいこと等を具体的に記入する。)
		教科名		
		授業参観者	他 () 名	
4	教育課題別研修	講座番号		
		研修講座名		
		主催者		
		実施日	月 日	
		実施時間	～	
5	教育課題別研修	講座番号		
		研修講座名		
		主催者		
		実施日	月 日	
		実施時間	～	
6	教育課題別研修	講座番号		
		研修講座名		
		主催者		
		実施日	月 日	
		実施時間	～	
7	ネットDE研修	講座名		◇本年度の教職2～3年次研修全体を振り返ってお答えください。(2年次・3年次対象者とも) ①研修で学んだことを自らの実践に活用できますか 1. できる 2. どちらかというところできる 3. どちらかというところできない 4. できない
		実施日	月 日	
		講座名		
		実施日	月 日	
8	ネットDE研修	講座名		②教職2～3年次研修全体を総合的に判断してください。 1. 満足 2. どちらかいうところ満足 3. どちらかというところ不満 4. 不満
		実施日	月 日	
		講座名		
		実施日	月 日	

☆2年次対象者のみお答えください。

(1) 2年目を終え振り返り、初任者研修の中で、あなたが役に立った、活用できる(できた)と思う研修内容はどれですか。(複数回答可)

【番号を記入: _____】

- ①教職員の修養 ②教職員の服務 ③危機管理 ④教職員のメンタルヘルス ⑤教育に対する心構え ⑥学習指導要領と教育課程 ⑦キャリア教育 ⑧生徒指導実践研修 ⑨授業実践研修 ⑩防災教育 ⑪特別支援教育 ⑫人権教育 ⑬児童生徒理解 ⑭手話を通じたコミュニケーション ⑮学校・学級経営 ⑯ICT活用 ⑰教職員としての生き方・あり方 ⑱その他 ()

(2) 初任者の時に学びたかった研修内容等がありましたら、お書きください。(自由記述)

(様式1)

記入例(2年次)

2年次に○

○ 2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)
平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講計画書

所属コード		提出日	令和2年 月 日
学校名		対象者職員番号	
校長名		対象者名	

○社会体験(2回) ※1回は5時間以上の研修

研修先選定理由		※研修先を選定した理由や研修のねらいについて、自分のことばで記述する。		
回	研修講座名	指標項目番号	研修の概要	
1	社会体験研修	(3) (13)	研修先 (住所)	〇〇観光ホテル 三重県〇〇市
			実施日時	夏季休業中
			内容	ホテルでの接客体験
2	社会体験研修	(3) (13)	研修先 (住所)	※令和2年度、受講を計画しているもののみを記入する。 (来年度以降受講予定のものは記入しない。 また、本年度受講する予定がまったくない場合は空欄で提出する。)
			実施日時	
			内容	

○授業研究(1回) ※原則1限分の提案授業と事後協議

回	研修講座名	指標項目番号	研修の概要			
3	授業研究	(6) (7) (8)	提案授業予定日限	6月29日 3限目	教科名	国語
			授業改善に向けて、取り組みたいこと	※授業改善に向けて、自己の課題や取り組みたいことなど、自分のことばで記述する。		

○教育課題(3回) ※1回は2時間

P17の指標の項目番号を参照し、研修講座の講座名やねらい等から、各自で該当すると考える項目番号を記入をする。(複数記入可)

回	研修講座名	指標項目番号	研修の概要					
4	教育課題別研修	(6) (7)	講座番号	K0301	実施日時	7月3日		
			研修講座名	授業づくり(小学校社会)	会場	〇〇市立〇〇小学校	主催者	三重県教育委員会
			会場	〇〇市立〇〇小学校	主催者	三重県教育委員会		
5	教育課題別研修	(9) ()	講座番号	L1001	実施日時	8月22日		
			研修講座名	学校における生徒指導・教育相談の進め方	会場	〇〇市教育研究所	主催者	〇〇市教育委員会
			会場	〇〇市教育研究所	主催者	〇〇市教育委員会		
6	教育課題別研修	(10) ()	講座番号	1234	実施日時	8月22日		
			研修講座名	学級づく	会場	〇〇町民センター	主催者	〇〇町教育委員会
			会場	〇〇町民センター	主催者	〇〇町教育委員会		

○ネットDE研修(2回) ※2講座受講で1回分

回	研修講座名	指標項目番号	研修の概要			
7	ネットDE研修	・学校組織運営力(10~14) ・教育課題への対応力(15~20)	講座名	組体操・組立体操の指導について	実施日時	夏季休業中
			講座名	DLAからはじめる外国人児童生徒教育と社会適応	実施日時	夏季休業中
			会場	〇〇市立〇〇小学校	主催者	三重県教育委員会
8	ネットDE研修	・児童生徒理解(5) ・授業力(6,7,8) ・生徒指導(9)	講座名	『特別の教科 道徳』の授業づくり	実施日時	8月22日
			講座名	これで安心！新任先生のための8つの心構え	会場	〇〇町民センター
			会場	〇〇町民センター	主催者	〇〇町教育委員会

- ・「研修受講計画書」は、令和2年度に受講する研修についてのみ作成する。
- ・対象者は、指標を参照し、校長の指導、助言を得て作成する。
- ・「研修受講計画書」の提出後に研修内容等を変更する場合は、対象者は校長と相談のうえ決定する。その場合、「研修受講計画書」を再度提出する必要はない。

(様式2)

記入例(2年次)

2年次に○

<input type="radio"/>	2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)
<input type="radio"/>	平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講報告書

所属コード	対象教諭 ごとに別業	提出日	○年 ○月 ○日
学校名		対象者職員番号	
校長名		対象者名	各回の受講日より後の日付となっているか。

回	研修講座名	研修の概要	研修をとおして学んだことや今後の授業に活かしたいこと
1	社会体験研修	研修先	フロント業務や料理の配膳などを体験する中で、小さな仕事も相手の立場に立って丁寧に心を込めてやり遂げたことの大切さや、もてなしの心を学んだ。児童や保護者との関わりも同じだと感じた。心をこらに信頼関係を築いて
		住所	
		実施日	
		実施時間	

・5時間以上
(5時間以上受講したことがわかるように記入する。)

※令和2年度受講したものについてのみ記入する。
(未受講のものについては記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)

P17の「指標」を参照しながら、学んだこと、今後活かしたいことを振り返る。

		実施日	月 日	
		実施時間	～	
3	授業研究	提案授業 実施日限	6月29日	3限目
		教科名	国語	
		授業参観者	○○○○ 他(3)名	

(※提案授業や事後協議をとおして学んだことや今後の授業に活かしたいこと等を記入)

提案授業の参観者の名前を記入する。複数の場合は、代表1名の名前を記入し、参観者数を記入する。

4	教育課題別研修	講座番号	K0301	
		研修講座名	授業づくり(小学校社会)	
		主催者	三重県教育委員会	
		実施日	7月3日	
		実施時間	13:30～17:00	

・2時間以上の講座で1単位とすることができる。(受講時間がわかるように記入する。)

		講座番号	T020101	
		研修講座名	通常学級における特別支援教育「クラスづくり編」	
		主催者	三重県教育委員会	
		実施日	8月22日	
		実施時間	9:30～12	

市町等教育委員会等主催の研修講座は、講座番号があれば記入。なければ空欄でよい。

・「研修受講報告書」は令和2年度に受講した研修についてのみ作成する。
・対象者は、校長の指導、助言を得て作成する。

6	教育課題別研修	講座番号	1234	
		研修講座名	学級づくり	
		主催者	○○町教育委員会	
		実施日	8月27日	
		実施時間	14:00～16:30	

・2時間以上の講座で1単位とすることができる。(受講時間がわかるように記入する。)

7	ネットDE研修	講座名		
		実施日		
		講座名		
		実施日		

◇本年度の教職2～3年次研修全体を振り返ってお答えください。(2年次・3年次対象者とも)

- ①研修で学んだことを自らの実践に活用できますか。
- 1. できる 2. どちらかというとき 3. どちらかというときできない 4. できない

8		『特別の教科 道徳』の授業づくり	
		8月23日	
		これで安心！新任先生のための8つの心構え	
		実施日	9月3日

・1回(2講座)の受講は同一年度に完了する。

本年度の教職2～3年次研修全体を振り返って(プルダウンで数字を選択する)

☆2年次対象者のみお答えください。

(1)2年目を終え振り返り、初任者研修の中で、あなたが役に立った、活用できる(できた)と思う研修内容はどれですか。(複数回答可)

【番号を記入：⑤⑦⑩】

- ①教職員の修養 ②教職員の服務 ③危機管理 ④教職員のメンタルヘルス ⑤教育に対する心構え ⑥学習指導要領と教育課程 ⑦キャリア教育 ⑧生徒指導実践研修 ⑨授業実践研修 ⑩防災教育 ⑪特別支援教育 ⑫人権教育 ⑬児童生徒理解 ⑭手話を通じたコミュニケーション ⑮学校・学級経営 ⑯ICT活用 ⑰教職員としての生き方・あり方 ⑱その他()

(2)初任者の時に学びたかった研修内容等がありましたら、お書きください。(自由記述)

(様式1)

記入例(3年次)

3年次に○

	2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)
○	平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講計画書

所属コード		提出日	令和2年 月 日
学校名		対象者職員番号	
校長名		対象者名	対象教諭 ごとに別業

○社会体験(2回) ※1回は5時間以上の研修

研修先選定理由	※研修先を選定した理由や研修のねらいについて、自分のことばで記述する。								
回	研修講座名	指標 項目番号	研修の概要						
1	社会体験研修	(3) (13)	<table border="1"> <tr> <td>研修先(住所)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実施日時</td> <td></td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)</td> </tr> </table>	研修先(住所)		実施日時		内容	※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)
研修先(住所)									
実施日時									
内容	※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)								
2	社会体験研修	(3) (13)	<table border="1"> <tr> <td>研修先(住所)</td> <td>〇〇観光ホテル 三重県〇〇市</td> </tr> <tr> <td>実施日時</td> <td>夏季休業中 わかる範囲で記入</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>ホテルでの接客体験</td> </tr> </table>	研修先(住所)	〇〇観光ホテル 三重県〇〇市	実施日時	夏季休業中 わかる範囲で記入	内容	ホテルでの接客体験
研修先(住所)	〇〇観光ホテル 三重県〇〇市								
実施日時	夏季休業中 わかる範囲で記入								
内容	ホテルでの接客体験								

○授業研究(1回) ※原則1限分の提案授業と事後協議

提案授業の参観者の名前を記入する。 複数の場合は、代表1名の名前を記入。 (予定でよい)															
回	研修講座名	指標 項目番号	研修の概要												
3	授業研究	(6) (7) (8)	<table border="1"> <tr> <td>提案授業予定日限</td> <td>6月28日 3限目</td> <td>教科名</td> <td>国語</td> <td>授業参観者名(予定)</td> <td>〇〇 〇〇</td> </tr> <tr> <td>授業改善に向けて、取り組みたいこと</td> <td colspan="5">※授業改善に向けて、自己の課題や取り組みたいことなど、自分のことばで記述する。</td> </tr> </table>	提案授業予定日限	6月28日 3限目	教科名	国語	授業参観者名(予定)	〇〇 〇〇	授業改善に向けて、取り組みたいこと	※授業改善に向けて、自己の課題や取り組みたいことなど、自分のことばで記述する。				
提案授業予定日限	6月28日 3限目	教科名	国語	授業参観者名(予定)	〇〇 〇〇										
授業改善に向けて、取り組みたいこと	※授業改善に向けて、自己の課題や取り組みたいことなど、自分のことばで記述する。														

○教育課題(3回) ※1回は2時

P17の指標の項目番号を参照し、研修講座の講座名やねらい等から、各自で該当すると考える項目番号を記入する。(複数記入可)															
回	研修講座名	指標 項目番号	研修の概要												
4	教育課題別研修	(6) (7)	<table border="1"> <tr> <td>講座番号</td> <td></td> <td>実施日時</td> <td>月 日</td> </tr> <tr> <td>研修講座名</td> <td></td> <td colspan="2">※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	講座番号		実施日時	月 日	研修講座名		※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)		会場			
講座番号		実施日時	月 日												
研修講座名		※令和2年度、受講を計画しているものを記入する。 (2019(平成31)年度に受講完了したものは記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)													
会場															
5	教育課題別研修	(9) ()	<table border="1"> <tr> <td>講座番号</td> <td></td> <td>主催者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研修講座名</td> <td></td> <td colspan="2">県教委研修担当の研修講座等は、「K」「T」などで始まる講座番号を記入する。</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	講座番号		主催者		研修講座名		県教委研修担当の研修講座等は、「K」「T」などで始まる講座番号を記入する。		会場			
講座番号		主催者													
研修講座名		県教委研修担当の研修講座等は、「K」「T」などで始まる講座番号を記入する。													
会場															
6	教育課題別研修	(10) ()	<table border="1"> <tr> <td>講座番号</td> <td>1234</td> <td>実施日時</td> <td>8月22日</td> </tr> <tr> <td>研修講座名</td> <td>学級づくり</td> <td colspan="2">市町等教育委員会等主催の研修講座は、講座番号があれば記入。なければ</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>〇〇町民センター</td> <td>主催者</td> <td>〇〇町教育委員会</td> </tr> </table>	講座番号	1234	実施日時	8月22日	研修講座名	学級づくり	市町等教育委員会等主催の研修講座は、講座番号があれば記入。なければ		会場	〇〇町民センター	主催者	〇〇町教育委員会
講座番号	1234	実施日時	8月22日												
研修講座名	学級づくり	市町等教育委員会等主催の研修講座は、講座番号があれば記入。なければ													
会場	〇〇町民センター	主催者	〇〇町教育委員会												

○ネットDE研修(2回) ※2講座受講で1回

回	研修講座名	指標 項目番号	研修の概要								
7	ネットDE研修	(10)~(14) (15)~(23)	<table border="1"> <tr> <td>講座名</td> <td></td> <td>実施日時</td> <td>夏季休業中 三重県教育委員会</td> </tr> <tr> <td>講座名</td> <td></td> <td>主催者</td> <td>三重県教育委員会</td> </tr> </table>	講座名		実施日時	夏季休業中 三重県教育委員会	講座名		主催者	三重県教育委員会
講座名		実施日時	夏季休業中 三重県教育委員会								
講座名		主催者	三重県教育委員会								
8	ネットDE研修	(5) (6)~(8) (9)	<table border="1"> <tr> <td>講座名</td> <td>『特別の教科 道徳』の授業づくり</td> <td>主催者</td> <td>三重県教育委員会</td> </tr> <tr> <td>講座名</td> <td>これで安心！新任先生のための8つの心構え</td> <td colspan="2">2019(平成31)年度に第8回ネットDE研修を受講完了していない者は、実施要項P8・9に示した【B】から2番組を受講する。</td> </tr> </table>	講座名	『特別の教科 道徳』の授業づくり	主催者	三重県教育委員会	講座名	これで安心！新任先生のための8つの心構え	2019(平成31)年度に第8回ネットDE研修を受講完了していない者は、実施要項P8・9に示した【B】から2番組を受講する。	
講座名	『特別の教科 道徳』の授業づくり	主催者	三重県教育委員会								
講座名	これで安心！新任先生のための8つの心構え	2019(平成31)年度に第8回ネットDE研修を受講完了していない者は、実施要項P8・9に示した【B】から2番組を受講する。									

- ・「研修受講計画書」は、令和2年度に受講する研修についてのみ作成する。
- ・対象者は、指標を参照し、校長の指導、助言を得て作成する。
- ・「研修受講計画書」の提出後に研修内容等を変更する場合は、対象者は校長と相談のうえ決定する。その場合、「研修受講計画書」を再度提出する必要はない。

(様式2)

記入例(3年次)

3年次に○

2019(平成31)年度初任者研修対象者(2年次)

○ 平成30年度初任者研修対象者(3年次)

令和2年度 教職2～3年次研修 研修受講報告書

所属コード	提出日	年	月	日
学校名	対象者職員番号			
校長名	対象者名	各回の受講日より後の日付となっているか。		

回	研修講座名	研修の概要	研修をとおして学んだこと、今後の教育活動で活かしたいこと
1	社会体験研修	<p>※本年度受講したものについてのみ記入する。 (昨年度受講完了したものについては記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)</p>	
2	社会体験研修	研修先 ○○観光ホテル 住所 三重県○○市○○町・・・ 実施日 8月4日 実施時間 10:00～17:00	フロント業務や料理の配膳などを体験する中で、仕事も相手の方さや、もてなしの心を学んだ。 P17の「指標」を参照しながら、学んだこと、今後に活かしたいことを振り返る。
3	授業研究	・5時間以上(5時間以上受講したことがわかるように記入する。)	
4	教育課題別研修	<p>・「研修受講報告書」は令和2年度に受講した研修についてのみ作成する。 (昨年度受講完了したものについては記入せず、セルを【黄色】で塗りつぶす。)</p> <p>・対象者は、校長の指導、助言を得て作成する。</p>	
5	教育課題別研修	研修講座名 主催者 実施日 実施時間	
6	教育課題別研修	講座番号 K0301 研修講座名 授業づくり(小学校社会) 主催者 三重県教育委員会 実施日 7月3日 実施時間 13:30～17:00	○小学校6年生児童に対する講師先生の示範授業を参観し、その後事後検討会に参加した。子どもたちの考えや発言を引き出す課題設定や教材研究の仕方について学ぶことが多かった。児童主体の授業展 ・2時間以上の講座で1単位とすることができる。(受講時間がわかるように記入する。)
7	ネットDE研修	講座名 実施日 講座名 実施日	◇本年度の教職2～3年次研修全体を振り返ってお答えください。(2年次・3年次対象者とも) ①研修で学んだことを自らの実践に活用できますか。 1. できる 2. どちらかというところ 3. どちらかというところできない 4. できない
8		『特別の教科 道徳』の授業づくり 8月23日 これで安心！新任先生のための8つの心構え 9月3日	②教職 1. 満足 2. どちらかというところ 3. どちらかというところできない 4. できない 本年度の教職2～3年次研修全体を振り返って(プルダウンで数字を選択する)

☆2年次対象者のみお答えください。

(1)2年目を終え振り返り、初任者研修の中で、あなたが役に立った、活用できる(できた)と思う研修内容はどれですか。(複数回答可)

【番号を記入:】

3年次対象者は回答しなくてよい。

①教職員の修養 ②教職員の服務 ③危機管理 ④教職員の心構え ⑤学習指導要領と教育課程 ⑦キャリア教育 ⑧生徒指導実践研修 ⑨授業実践研修 ⑩防災教育 ⑪特別支援教育 ⑫人権教育 ⑬児童生徒理解 ⑭手話を通じたコミュニケーション ⑮学校・学級経営 ⑯ICT活用 ⑰教職員としての生き方・あり方 ⑱その他()

(2)初任者の時に学びたかった研修内容等がありましたら、お書きください。(自由記述)

校長及び教員としての資質の向上に関する指標

(1) 教員としての資質の向上に関する指標

ライフステージ		項目番号	第1ステージ	
			初任～教職経験5年次	
資質能力		基礎形成期		
		実践力を磨き、基礎・基盤を固める。		
必要とされる素養	教育的愛情 使命感 責任感	①	○児童生徒への深い愛情と教職への誇り、強い使命感と責任感を持って、職務を遂行することができる。	
	倫理観 コンプライアンス	②	○教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令や服務規律の遵守を徹底している。 ○自らの行動が学校教育に寄せる県民の信頼に与える影響を理解し、自らを厳しく律することができる。	
	社会性 コミュニケーション力	③	○確かな人権感覚を持ち、児童生徒や保護者、地域等との信頼関係を構築することができる。 ○相手の思いを受け止めるとともに、自分の考えを適切に伝えることができ、組織の一員として行動できる。	
	学び続ける意欲 探究心	④	○探究心を持って自己研鑽に努めるとともに、他の教職員と共に学び合い、職務の改善に活かすことができる。	
必要とされる専門性	児童生徒理解	⑤	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景を把握し、カウンセリングマインドを持って向き合うことができる。	
	授業力	授業計画	⑥	○学習指導要領のねらいをふまえ、児童生徒の実態に応じて、児童生徒の主体的な学びを引き出す授業づくりができる。
		授業実践	⑦	○児童生徒主体の授業を行うための適切な技能(説明・指示・発問等)を身につけ、各時限の目標を明確にした授業を実践し、児童生徒の学習評価を適切に行うことができる。
		授業改善	⑧	○教科等の指導の工夫に努めるとともに、自らの授業を振り返り、他の教員の良いところを取り入れて、授業改善を図ることができる。
生徒指導	⑨	○日常的に児童生徒の生活状況を把握するとともに、児童生徒の発するサインを見逃すことなく、問題行動等を早期に発見し、他の教職員に報告・連絡・相談しながら迅速に対応することができる。		
必要とされる専門性	学校組織運営力	学級経営 学校運営への参画	⑩	○学校教育目標を理解し、学級経営や教科指導を実践するとともに、担当する校務分掌における自らの役割を自覚して、計画的に職務を遂行できる。
		危機管理	⑪	○児童生徒の活動に際し、常に危機管理意識を持ち、他の教職員の指導・助言を受けながら的確な安全確保策を講じることができる。
		チームワーク 人材育成	⑫	○組織の一員として求められる役割を理解し、他の教職員からの指導・助言を受けながら協働し、円滑に職務を遂行することができる。
		家庭・地域社会・関係 機関との連携と協働	⑬	○主体的・積極的に家庭や地域と関わり、良好な信頼関係を築くとともに、他の教職員の指導・助言を受けながら適切に対応することができる。
		ワーク・ライフ・バランス	⑭	○業務の簡素化や効率化について、他の教職員との対話をととして業務改善を図り、心身ともに健康で意欲的に職務を遂行できる。
	教育課題への対応力	グローバル教育・郷土教育	⑮	○地域と連携して、豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身につける学習を展開することができる。
		キャリア教育	⑯	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につける学習を展開することができる。
		情報教育	⑰	○児童生徒に情報活用の実践力や情報モラルについて理解を深めるための学習を展開することができる。
		人権教育	⑱	○人権教育基本方針を理解している。 ○児童生徒が人権課題についての正しい理解と認識を深め、差別意識をなくそうとする態度や実践力を育む指導を他の教職員と相談しながら、展開することができる。
		特別支援教育	⑲	○特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態の把握に基づく指導・支援を行うことができる。また、他の教職員と連携・協力しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。
外国人児童生徒教育		⑳	○日本語指導が必要な児童生徒に対して、適切な指導・支援を行うことができる。また、他の教職員と連携・協力しながら、多文化共生への理解を深める教育活動を実践することができる。	
いじめに関する事項		㉑	○いじめの防止や早期把握のために、児童生徒の発するサインを察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、他の教職員と連携・協力しながら組織的に取り組むことができる。	
不登校に関する事項		㉒	○児童生徒の居場所づくりや仲間づくりに取り組むとともに、積極的な声かけや関わりにより、不登校の初期段階での改善・解消に向け、他の教職員と連携・協力しながら組織的な対応をすることができる。	
防災に関する事項	㉓	○児童生徒が三重県の地理的特性を理解し、防災に関する知識を深めるとともに、危険を回避する方法を習得できるよう指導することができる。		

◆第7回対象講座◆

講座名	講師
学校安全・危機管理	
「防災ノート」を活用した効果的な防災学習の進め方	三重大学大学院 工学研究科 准教授 川口 淳
大震災における学校の対応～避難所運営の実態と学校教育の共存～	神戸市教育委員会事務局 指導課長 中溝 茂雄
災害時における管理職のリーダーシップ～命の大切さをどう伝えるか～	気仙沼市教育委員会事務局 学校教育課長補佐 伊東 毅浩
三重県の学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について<指針>	県教育委員会事務局教育総務室 川本 孝司
自らのいのちを守る防災教育の実践	三重大学大学院 工学研究科 准教授 川口 淳
阪神淡路大震災の体験～人々を救ったのは人の心～	NPO法人ユースプラザ西2009 近藤 豊宣
学校における新型インフルエンザ対策	国立病院機構三重病院 庵原 俊昭
学校における危機管理「実践編」	三重県教育委員会 教育総務室 川本 孝司
地域安全マップづくり	立正大学 小宮 信夫 立正大学犯罪社会学研究会
クライシス対応メディアトレーニング	フレイマンブライトジャパン株式会社 熊澤 啓三
学校経営	
三重の学校事務の「共同実施」～学校運営のための有効活用～	津市立西郊中学校 倉田 幸一
学校保健マネジメント	筑波大学 教授 柳沢 和雄
地域とともに伸びゆく学校づくり～学校経営への学校事務の共同実施の効果的な活用について～	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
学校経営の充実を図る学校評価	玉川大学教職大学院 小松 郁夫
全ての教職員を活かす管理職の在り方	国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄
学校経営と学校事務の共同実施	兵庫県立大学 清原 正義
リーダーシップを発揮した質の高い学校経営	教育コンサルタント シャロン・ホロウズ
管理職のリーダーシップ	産業能率大学 浅野 良一
教職員の人材育成	産業能率大学 浅野 良一
コンプライアンス(法令遵守)	
これだけは！教師に求められる知的財産の知識	三重大学教育学部 技術・ものづくり講座 教授 松岡 守
「知らなかった」じゃ済まない！～個人情報保護・情報セキュリティについて～	金城学院大学国際情報学部 教授 長谷川 元洋
教育活動における体罰の防止～学校観の変化の中で～	日本女子大学 坂田 仰
教師のための著作権	放送大学ICT活用・遠隔教育センター 尾崎 史郎
信頼される教職員をめざして～不祥事根絶に向けて～	三重県教育委員会 人材政策室
学級経営と教育法規～スクール・コンプライアンスの確立に向けて～	日本女子大学 坂田 仰
どう対処する？学校における個人情報保護	金城学院大学 長谷川 元洋
職員のためのセキュリティ9つのポイント Part2	三重県地域振興部情報企画室
職員のためのセキュリティ9つのポイント Part1	三重県地域振興部情報企画室
学校におけるデジタル時代の著作権	社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 久保田 裕
男女共同参画・次世代育成支援	
男女共同参画社会の実現に向けて	三重県男女共同参画センター 柏木 はるみ
中高生のデートDV～デートDVは力と支配の関係～	名古屋YWCA フェミニストカウンセラー 具 ゆり
はじまよう！ワークライフ・バランス～パパの極意 仕事も育児も楽しむ生き方～	NPO法人ファザーリング・ジャパン 安藤 哲也
先生がお手本、次世代育成	獨協大学 阿部 正浩
特別支援教育	
三重県の特別支援教育について	三重県教育委員会事務局 特別支援教育課
ICTを活用した支援	香川大学教育学部 香川大学バリアフリー支援室 教授 坂井 聡
医療的ケアを必要とする子どもと家族が地域で暮らすこと	三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター センター長 岩本 彰太郎
医療的ケアを必要とする子どもと家族が地域で暮らすこと～喀痰吸引・経管栄養	看護師 渡辺美喜子
通常学級で無理なくできるユニバーサルデザイン～あったかクラスづくり～	ブル学院大学 准教授 松久 眞実
学級づくりに活かすソーシャルスキルトレーニング	都留文科大学 教授 品田 笑子
クラスの中にある「気になる子ども」もどう支援するか	宮城教育大学 野口 和人
気になる子どもへの指導と保護者支援の実践	特別支援教育ネット 小栗 正幸
特別支援学級等担当の心構え	元三重大学教育学部附属特別支援学校教頭 中谷 裕美
特別支援教育～通常の学級における教科指導～	神戸市立板宿小学校・きこえとことばの教室 岸本 友宏
自閉症の理解を求めて～息子とともに生きて～	日本自閉症協会三重県支部 中野 喜美
手話入門～コミュニケーションをとるために～	三重県健康福祉部 田中 ひろみ 三重県立聾学校 大屋 隆
発達障がいのある子のための教育支援モデル	岡山大学 佐藤 暁
特別支援教育における「個別の指導計画」	三重大学教育学部附属養護学校 坂本 学
人権教育	
「多様な性のあり方を知り、行動するための職員ガイドライン」について	県環境生活部 人権課、ダイバーシティ社会推進課
「人権教育カリキュラム」の作成について	文部科学省「人権教育の指導方法等に関する調査研究会」委員 桑原 成康 三重県教育委員会 人権教育課
桂七福の人権落語	上方落語家 桂 七福
学校における人権教育の在り方について	聖徳大学 福田 弘
「人権教育こそ教育の基本」～管理職の役割～	伊賀市立石植小学校 桑原成康
インターネットと人権～人権を侵害する情報に出会ったらどうするか～	株式会社 インターネットフレイバー研究所 高木 寛
人権一人芝居「もも子」～人権教育と学級集団づくりについて考える～	子どもの学び館 福永 宅司
国際理解教育の推進～JICA中部の取組～	JICA中部 清水 治代
新ちゃんのお笑い人権高座	人権落語家 露の新治
楽しい学校をたのしく創りたい～管理職として人権・同和教育をどう進めるか～	大阪府南河内郡美原町立西中学校 矢野 洋
健康・メンタルヘルス	
多様化、深刻化する子どもの健康課題の解決に向けて～組織的に行う学校保健活動～	名古屋学芸大学大学院 采女 智津江
健康教育と食情報	群馬大学 高橋 久仁子
学校におけるアレルギー疾患を有する子どもへの対応について	国立病院機構三重病院臨床研究部 藤澤 隆夫
教職員の悩みとメンタルヘルス～悩みと上手につきあうために～	明治大学 諸富 祥彦
スポーツ医学～指導者必須の課題～	中京大学 中川 武夫
スポーツのための栄養・食事学	帝京大学 堀田 友子
健康相談活動の理論と実際～養護教諭の専門性・固有性・独自性を生かして～	京都市総合教育センター 市木 美知子
食物アレルギーとその対応	独立行政法人国立病院機構 相模原病院 今井 孝成
こころが強くなるには～すぐにできるメンタルトレーニング～	メンタルトレーニング施設企画 岡本 正善
子どもの「身体」「心」「知識・スキル」を育てる	名古屋短期大学保育科 小川 雄二
子どものこころから育てる食生活教育	大阪市立大学大学院 春木 敏
健康保障のための養護教諭の役割～健やかな心と体を育てるために～	関西女子短期大学 大川 尚子
コーチング	
コーチングの魅力～その実践を通して～	四日市市立内部中学校 伊藤裕之、三重県職員研修センター 筒井昭仁
コーチング実践編Ⅱ	株式会社コーチング・システムズ 稲垣 陽子、稲垣 友仁
コーチング実践編Ⅰ	株式会社コーチング・システムズ 稲垣 陽子、稲垣 友仁
コーチング～教えるティーチングから能力を引き出すコーチングへ～	株式会社 コーチ・トゥエンティワン 桜井 一紀
学級経営	
外国人児童生徒のための日本語教育の考え方と環境づくり～子どもたちが将来の見通しをもって生きるために～	東京学芸大学 教授 齋藤 ひろみ
よりよい生活や人間関係を築く特別活動～いじめ等の未然防止、学力向上の土壌づくり～	国学院大学 人間開発学部 教授 杉田 洋
多文化共生の視点に立った教育の推進～日本語指導の充実を通して～	日本語教師養成講座 講師 船見 和秀
表現を磨いて生き生き学級経営	NHK学園 山岸 弘子
学級集団を「育てる」	上越教育大学教職大学院 赤坂 真二
外国人児童生徒教育の充実「日本語指導の手引き(4)」活用に向けて	大阪教育大学 准教授 臼井 智美
尾木直樹の「子どもが自立する学校」～その秘訣～	法政大学 尾木直樹
学級における人間関係づくり～円滑な学級経営のために～	名城大学 曾山 和彦
外国人児童生徒教育の充実	元三重県公立中学校教諭 藤本 美知代
実践から導く学校飼育動物の活用法とその利点	全国学校飼育動物研究会 中川 義博子
教室で使えるボルトガル語講座	天理大学 野中 モニカ
ワーキングホリデー研修を学ぶ	熊本県立総合教育センター 西 泰弘
こころを育てる合唱指導	国立市立国立第三中学校 渡瀬 昌治
朝の読書の原点を求めて	新潟県立新潟県央工業高等学校 片桐 史裕
図書館を有効に活用した調べ学習～学びの大海に旅立とう～	神奈川県立青少年センター 片岡 剛夫
ICT活用・情報教育	
「ICT基準A-E対応」指導計画の作成と校務の情報化	目白大学 原 克彦
「ICT基準B対応」ICTを活用してわかる授業をする力	メディア教育開発センター 堀田 龍也
「ICT基準C対応」児童・生徒のICT活用能力を育てるには	メディア教育開発センター 中川 一史
「ICT基準D対応」誰にもできる！情報モラルの指導について	岐阜聖徳学園大学 石原 一彦
インターネットの急激な変化と学校現場での指導	ヒットクルー株式会社 高橋 大洋
児童生徒の情報活用能力の育成～最近の情報端末活用授業～	和歌山大学 豊田 充崇

◆第7回対象講座◆

講座名	講師
よりよい生活の実現に向けた消費者教育	文部科学省 消費者教育アドバイザー 荒木 武文
カリキュラム・マネジメント	千葉大学特任教授 天笠 茂
DLAからはじめる外国人児童生徒教育と社会適応	東京外国語大学 副学長 伊東祐郎
学校の働き方改革(管理職向け)	教育研究家、学校マネジメントコンサルタント 妹尾昌俊
学校の働き方改革(教職員向け)	教育研究家、学校マネジメントコンサルタント 妹尾昌俊
コミュニティ・スクールの可能性を追求する ～授業を開く 人材育成ユニット～	山口大学教職大学院 山口CSコンダクター 池田 廣司
子ども・子育て支援制度とこれからの保育・幼児教育 ～幼保一体化、認定こども園への移行～	鈴鹿大学短期大学部 特任教授 田口 鉄久
キャリア教育の充実のために	国立教育政策研究所 総括研究官 藤田 晃之
本気のチームづくり	有限会社 てっぺん 大嶋 啓介
会議がガラリと変わる！ 効果的な会議運営	株式会社 グローバルリンク 大串 亜由美
保護者との良好な関係づくり	立川市立立川第一中学校 嶋崎 政男
幼小連携をめぐる ～まなびの履歴～	白梅学園大学 無藤 隆
熊野古道の歴史と文化	日本児童文学者協会会員 口倉 肇
幼小の連携 ～幼小のなめらかな接続をめざして～	岡山大学教育学部附属幼稚園 高見 裕子
金メダリストはこうして育った	アテネオリンピック金メダリスト 吉田 沙保里

◆第8回対象講座◆

講座名	講師
児童生徒の心に残る食の授業のつくり方(消費者教育の視点から)	武庫川女子大学 藤本 勇二
プログラミング教育 一入門編一	奈良女子大学 生活環境学部 教授 駒谷昇一 他
アクティブ・ラーニング	横浜国立大学 教育人間科学部附属教育デザインセンター 教授 高木 展郎
授業の達人、7つの原則！ ～子どもが生き生きする「授業」づくり～	関西外国語大学 教授 明石 一朗
全国学力・学習状況調査の結果から見て～算数・数学を窓口として～	文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究開発センター 研究開発部 学力調査官
達人に学ぶ授業 宗我部義則	お茶の水女子大学附属中学校 教諭 宗我部義則
教育に新聞を(NIEとは)	三重大学 山根 栄次
全国学力・学習状況調査結果を踏まえた授業改善～言語活動の充実を図る～	文部科学省 学力調査官・教育課程調査官 榊山 敏郎
達人に学ぶ授業 中西 哲彦	日本福祉大学 中西 哲彦
達人に学ぶ授業 盛山隆雄	筑波大学附属小学校 教諭 盛山隆雄
子どもを引きつける「学びのしかけ」ー活動型授業を求めてー	東北福祉大学 准教授 上條 晴夫
思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実	文部科学省 教科調査官 水戸部 修治
統・魅力ある授業実践	株式会社 アビリティトレーニング 木下 晴弘
授業研究充実へのアプローチ	大阪教育大学 木原 俊行
授業の技を磨く	教材・授業開発研究所 有田 和正
魅力ある授業実践	株式会社 アビリティトレーニング 木下 晴弘
授業力アップのための授業デザイン	日本女子大学 吉崎 静夫
軸をまっすぐに ー教育の原点に返るー	京都市立堀川高等学校 荒瀬 克己
PISA型読解力を育成する学習指導	広島大学大学院 角屋 重樹
授業力アップをめざして ーOつけ法と復唱法ー	愛知教育大学 志水 廣
思考を耕す発問・板書の工夫	世田谷区立奥沢小学校 井出 一雄
教員のためのコミュニケーションスキル	関西国際大学 米田 薫
子どもたちの学習意欲と確かな学力を高める基礎学力指導法	富山市立山室中部小学校 杉田 久信
子どもたちを振り向かせる授業のコツ ーお笑いの世界に学ぶー	授業づくりネットワーク 上條 晴夫
生徒指導・教育相談	
子どもの発達と心の理解	放送大学教養学部 教授 大山 泰宏
君たちは狙われている！ 高校生諸君に送る弁護士菊地幸夫の消費者講座	番町法律事務所 弁護士 菊地 幸夫
いじめによる不登校への支援	亀山市子ども総合センター 専門監 志村 浩二
スクールカウンセラーの活用	スクールカウンセラー 瀬島 美保子
不登校状態の医学的背景とその対応	長尾こころのクリニック 院長 長尾 圭造
不登校対策・ひきこもり対策 適応指導教室と学校の関わり方	慶應義塾大学 教授 伊藤 美奈子
予防を中心としたいじめ対策	国立教育政策研究所 総括研究官 滝 充
いじめの実態理解から対策へ	国立教育政策研究所 総括研究官 滝 充
「生徒指導要領」を活用する生徒指導の改善・充実	東京女子体育大学 尾木 和英
児童虐待と学校対応の基礎	三重県児童相談センター 上羽 康史
児童生徒理解 ～思春期の子どもとネット社会～	京都文教大学 高石 浩一
教育相談入門 ～臨床心理学的視点から～	愛知教育大学大学院 中川 美保子
いのちの教育 ーいじめを乗り越える学級づくりー	金沢市立西南部小学校 金森 俊朗
学校で使えるカウンセリングテクニック	明治大学 諸富 祥彦
児童生徒理解 ー学校における教育相談ー	昭和女子大学 齋藤啓子
生徒指導 ー児童の理解と「学級崩壊」への対応についてー	和歌山大学 松浦 善満
生徒指導 ー児童の理解と「不登校」への対応についてー	大阪府立大学大学院 森田 洋司
児童生徒理解 ー学校において様々な不適応を示す児童生徒への理解とかかわりー	三重県教育委員会 教育サービス相談チーム 森川 泉
教科指導等	
論理的思考力を育てる国語の授業づくり	筑波大学附属小学校 白石 範孝
これからの「ことば」教育	石井 順治
境界線上の教材を用いた表現指導の戦略	早稲田大学 町田 守弘
社会科授業力の向上に向けて	國學院大学 安野 功
実践力とディスカッション力の向上を目指した消費者教育	東京経済大学 小木 紀親
社会科で身につける学力とは	愛知教育大学 寺本 潔
協同学習を取り入れた「足場」のある算数授業	横浜国立大学 石田 淳一
坪田算数 授業で大切にしたいこと	筑波大学附属小学校 坪田耕三
中学校教科における授業づくりの視点 ー若手教師のための入門講座ー	国立教育政策研究所 教育課程センター 永田 潤一郎
新しい時代のニーズに応える算数の授業	東海大学教育開発研究所 秋山 仁
すぐに使える小学校理科基礎実験	三重CST教員
野外観察入門 ～身近な環境から学ぶために～	三重県環境学習情報センター 木村 京子
理科実験のいろは	三重県教育委員会 研修指導室 大森 雅彦
いのちのかがやきをみよう！	ノートルダム女学院中学高等学校 中川 美津春
科学好きな子どもを育てる総合的な理科教育	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 五島 政一
佐治晴夫博士が語る「科学の世界と教育」	鈴鹿国際大学短期大学 佐治 晴夫
わくわく楽しい科学実験	名古屋科学館 佐伯 平二
簡単にできる岩石プレハート作り	三重県立四日市南高等学校 河原 孝
これからの小学校英語教育	文部科学省 教科調査官・教育課程調査官 直山 木綿子
小学校外国語活動の指導の充実 ～フォニックスの活用～	mpi松香フォニックス 英語教育アドバイザー 野中 美恵
英語力向上講座 ～英語の授業に自信が持てる！～	関西外国語大学 教授 中嶋 洋一
英語指導力養成講座 ～生徒が積極的に英語を使うことを目指して～	関西外国語大学 教授 中嶋 洋一
心豊かな生徒の育成を目指して～中学校における消費者市民教育～	三重大学 吉本 敏子 伊勢市立小俣中学校 教諭 西村 朱美
正しいパンツのたたみ方～家庭科の中から見える消費者問題～	大阪府立八尾北高等学校 教諭 南野 忠晴
図画工作の指導と評価	愛知教育大学 藤江 充
明日に役立つ音楽科授業の指導法～ピアノが苦手でも授業はうまくいく～	和歌山大学教育学部附属小学校 教諭 江田 司
組体操・組立体操の安全な指導について	日本体育大学 教授 荒木 達雄
柔道における安全指導について	愛知工業大学 服部 洋児
子どもの体力の二極化進展について考える	神戸大学大学院 平川 和文
「特別の教科 道徳」の授業づくり	京都産業大学 教授 柴原 弘志
落語で学ぶ「消費者教育～悪質商法とは？！～」	落語家 林家 染二
消費者市民社会とは何か ～買い物で世界を変える～	横浜国立大学 教育人間科学部 教授 西村 隆男
知らんとアカン！ ～お金のほなし～	生活経済ジャーナリスト いちのせかつみ
志高く今を熱く生きる子どもたちの育成	昭和女子大学 押谷 由夫
道徳研修 ーモラルジレンマを活用した道徳授業づくりのコツー	兵庫教育大学 荒木 紀幸
「総合的な学習」と「教科の学習」を統合 ー統合する子どもの学びー	上越教育大学 西野 範夫